

建築文化賞

景観に配慮した建築物

建築主：株式会社竹中工務店
設計：株式会社竹中工務店
施工：株式会社竹中工務店
所在地：千葉市中央区中央港1-16-1

端正な立面のリズムが心地よい低層オフィス

竹中工務店東関東支店



透明感あるシンプルでエレガントなファサード

モノレール千葉みなと駅前に平成15年に建てられた大手建設会社の地方支店。地方のオフィス建築では、一般に短期的な経済効率を追うあまりに、景観を形成しているという自覚のみられないものが少なくない。こうした状況にあって、この建物は経営的に成り立つ現実的なコストでも十分質の高い建築を実現できることを示している。

鉄骨造(一部RC造を併用)2階建て、延床面積1,000-1,500㎡程度の中小規模のオフィス建築で、横長の両立面を覆うシンプルなアルミフィンのデザインが、外にも内にも効いている。外に対しては端正な緊張感のあるリズムで街の景観に寄与する半面、内に対しては樗越しの木漏れ日をもう一段和らげオフィス空間をやさしい光で満たしている。

透明感の高い長手ファサードに対して短手ファサードを重厚なRC壁とすることにより短手方向の剛性を確保する一方、2階では16mスパンの開放的な平面を実現し

ている。構造と意匠の整合性が高く明解なデザインとなっている。また、屋根の水勾配を考慮してわずかにRC壁の上端を斜めするなどデザインの細やかさが完成度を高めている。

駅前という立地ではあるが、車によるアクセスが多い地区であり、規模・構造形式ともロードサイド型オフィス商業施設のプロトタイプとして一般化可能と思われる。ロードサイドは今や地方都市の実質的な表玄関なはずなのに、派手な看板を冠した粗悪な使い捨て建物が目立つ。美しい景観とは最も縁遠い難題の渦中に一石を投じてほしいという思いを、本作品受賞に託したい。(岡部明子)



昼夜のストリートスケープに貢献するファサード・ランドスケープ



街並の一部としての内部空間

(撮影/新建築社写真部)